

# 2022年度 ESG説明会

開催日：2022年11月25日



*Environment*



*Social*



*Governance*

# スクリプト

代表取締役社長 CEOの白柳でございます。

本日は、ご多忙の中、当社の「2022年度 ESG説明会」にご出席いただきましてありがとうございます。

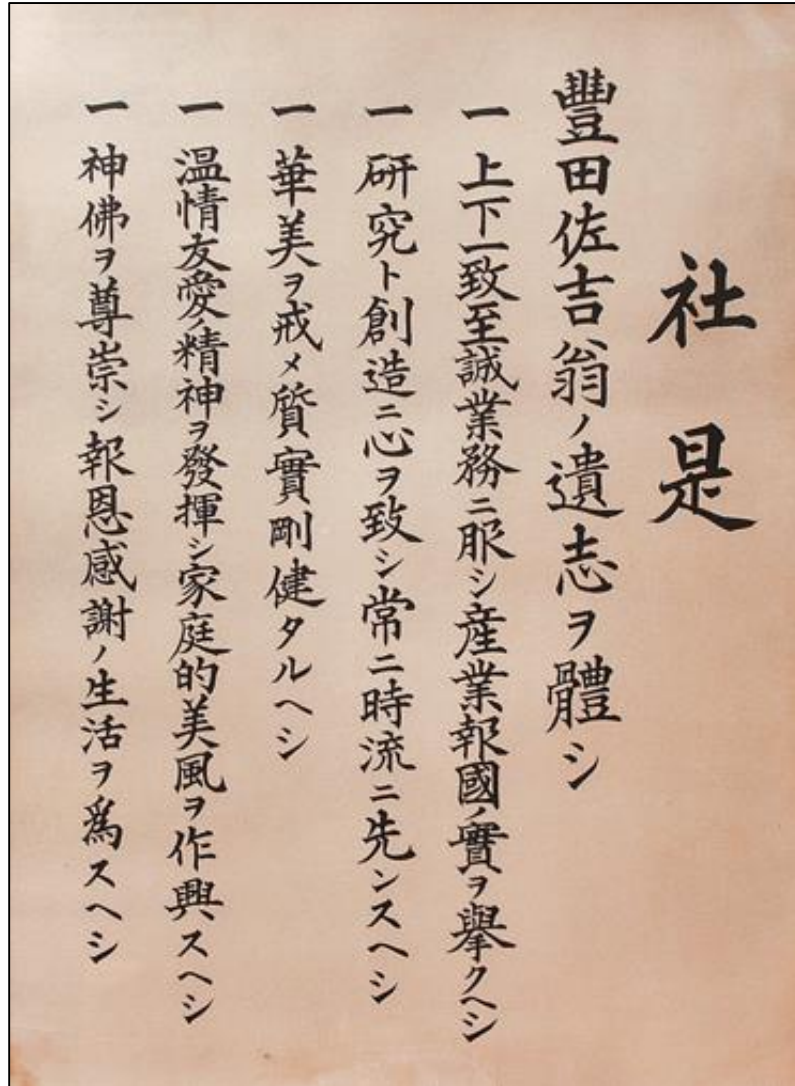
当社は、財務・非財務 両方の情報をより主体的に開示し、投資家の皆さんと対話をさせていただくことが、持続可能な成長と中長期的な企業価値の向上につながると考えています。

本日は、当社のESGの取り組みについてご説明いたします。

昨今、社会的な関心が高まっている人的資本や健康への取り組みなどにつきましても次回以降の説明会やウェブサイト、トヨタ紡織レポートなどで積極的に開示して参ります。

創業の精神である  
「世のため 人のため」  
を受け継いで

「感謝」「謙虚」  
「信頼され、選ばれる会社」  
「好きだな、トヨタ紡織」



豊田綱領

# スクリプト

当社は、創業者である豊田佐吉の創業の精神をまとめた「豊田綱領」を社是としております。

「豊田綱領」は全社員の行動指針としての役割を果たしており、私自身も「常に時流に先んずべし」や「報恩感謝」「質実剛健」という考え方を大切に、実践して参りました。

自分たちの仕事が多くの人々に支えられていることに「感謝」し、常に「謙虚」な姿勢で自分を見つめ、時代や環境の変化に合わせて自らを変えていける柔軟さを持つこと。これらが非常に重要だと私は考えております。

そして、ステークホルダーのみなさまから、「**好きだな、トヨタ紡織**」と言ってもらえる、社員一人ひとりが、仕事を通して社会に貢献できている事を実感し、会社に誇りを持って仕事に取り組んでいける、そんな会社をつかっていきたいと思っております。

本日は、トヨタ紡織グループのサステナビリティについて、ご説明いたします。  
当社のサステナビリティの取り組みを通し、「**信頼され、選ばれる会社**」を目指す、私たちの活動をご理解いただければ幸いです。



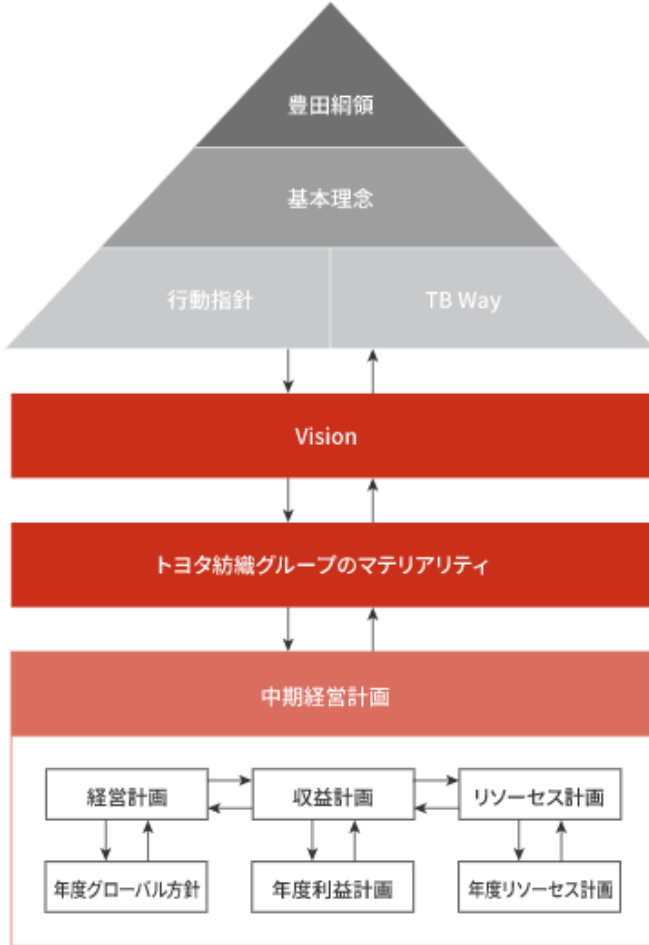
# 第1章

# トヨタ紡織グループのサステナビリティ

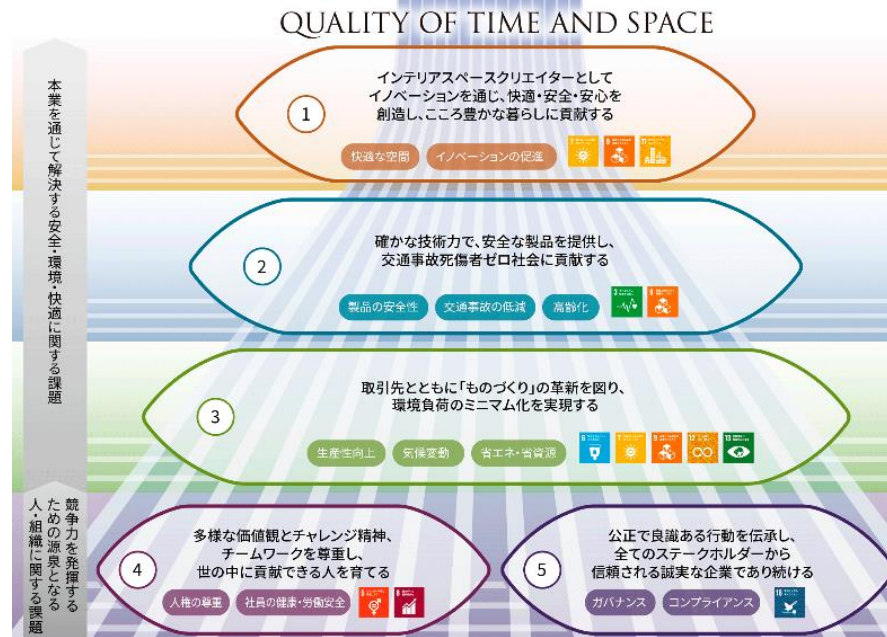
それでは、  
まず第1章でトヨタ紡織グループのサステナビリティについての  
考え方をご紹介します。

# 1. トヨタ紡織グループサステナビリティ 基本方針

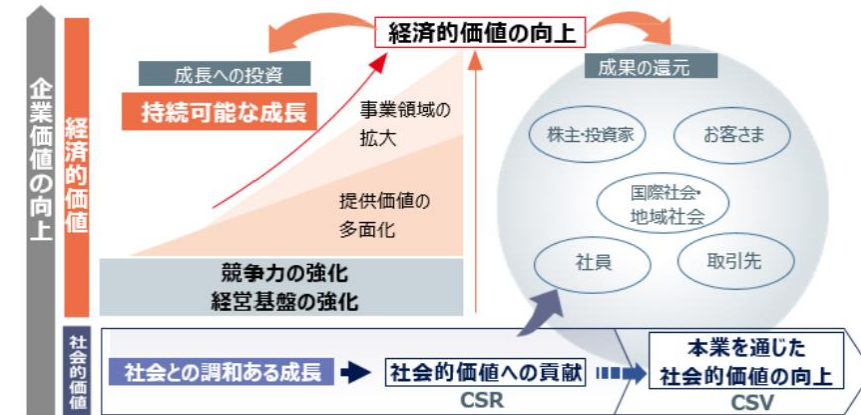
## 1) 経営の考え方



## 2) マテリアリティ



## 3) 経営の目指す姿



**本業を通じて社会課題の解決に取り組み「信頼され、選ばれる会社」を目指す**

# スクリプト

当社は事業活動を通じて、  
社会的価値と経済的価値の両方を高める  
C S V 経営へのシフトを加速しています。

C S V 経営の考え方を明確にするため、  
2021年12月に、「経営の考え方」、「マテリアリティ」、「経営の目指す姿」で  
構成される「トヨタ紡織グループサステナビリティ基本方針」を策定し公表致しました。

この基本方針に基づいて、サステナビリティの取り組みを推進し、  
本業を通じて社会課題解決に貢献して参ります。



# 2. ESG KPI

ESG KPI 25項目はP36に掲載

## E:カーボンニュートラル

小林 宏次      カーボンニュートラル環境センター センター長



ESG KPI

関連ページ

生産CO<sub>2</sub>排出量削減率

P10、11

## S:技術開発

山本 卓      CTO (Chief Technology Officer)



ESG KPI

関連ページ

インテリアスペースクリエイターに  
つながる新製品開発率

P21、22

交通安全に寄与する製品の  
採用が予定される車種率

P23

## S:風土改革・D&I

永田 伸久      CHRO (Chief Human Resource Officer)



ESG KPI

関連ページ

(女性管理職数)

P26

( )はESG KPI以外の社外公表済指標

## G:ガバナンス

白柳 正義      CEO (Chief Executive Officer)



ESG KPI

関連ページ

サイバーセキュリティ  
重大インシデント発生件数

P34

**ESG KPIを指標として活動を推進し、  
マテリアリティの達成と、2030年ありたい姿※の実現を目指す**

※2030年ありたい姿：企業価値の向上によりサステナブルかつ世界トップレベルの企業になる（インテリアスペースクリエイターとして新しい価値を創造）

# スクリプト

ESGの取り組みを評価する指標として、  
マテリアリティの達成と、2030年ありたい姿の実現に向けて、  
「ESG KPI」を2021年12月に設定し、達成の進捗度を測りながら  
社会課題を解決していくことで、企業価値向上を目指しております。

KPIの項目・目標値は、  
環境ではCO2排出量削減、社会ではインテリアスペースクリエイターにつながる技術開発、  
また風土改革やダイバーシティ&インクルージョン、  
そしてガバナンス それぞれに関連して設定し、  
その結果や進捗は、CSV推進会議でモニタリングし、取締役会でも確認しております。



## 第2章

# 世のため人のための社会課題解決に向けた取り組み



第2章では、具体的な取り組みをそれぞれの担当役員からご紹介致します。



**環境：  
トヨタ紡織2050年環境ビジョン達成を目指して**

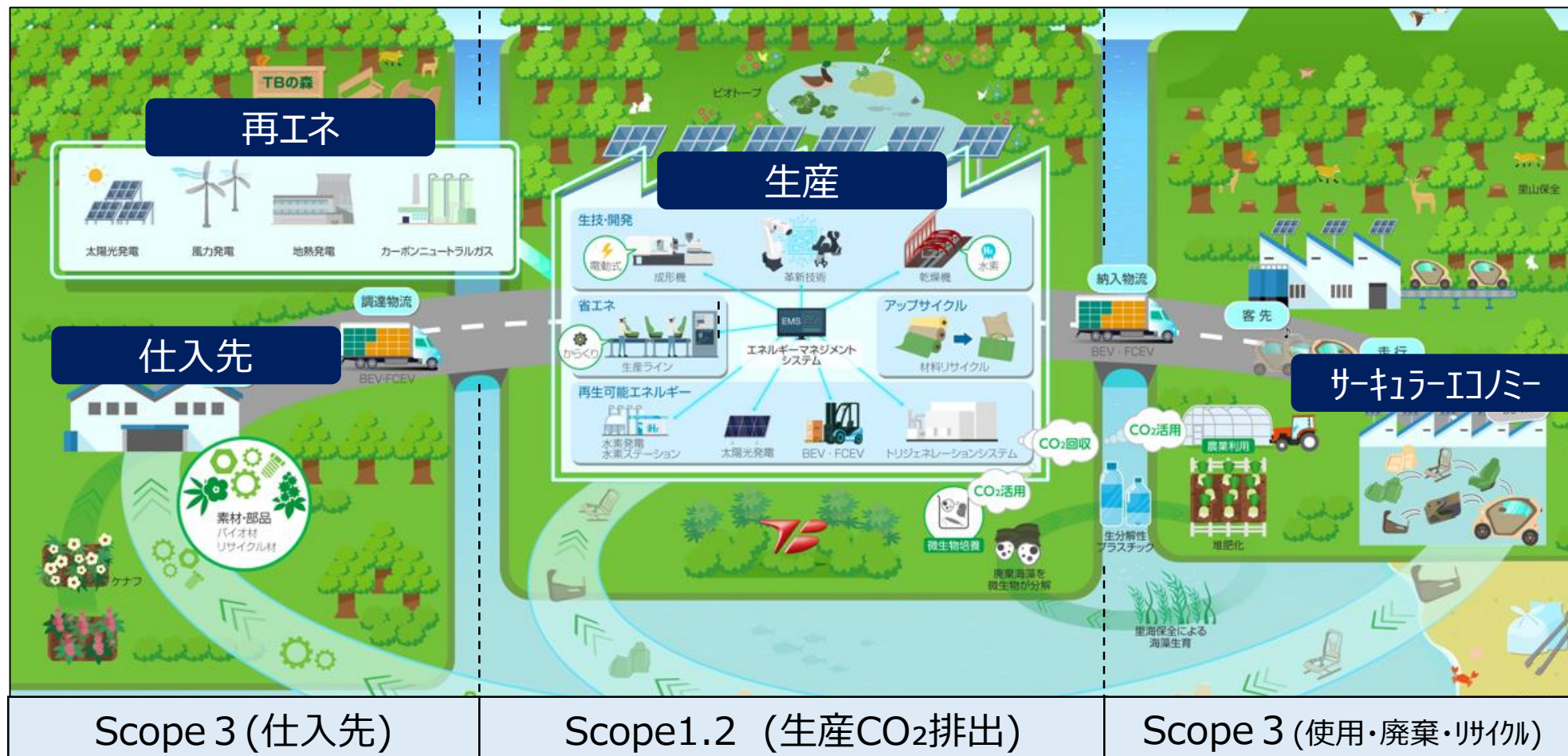
# スクリプト

カーボンニュートラル環境センター センター長の小林です。

まずは、私から、当社の環境の取り組みについて、ご説明させていただきます。

# 1. 2050年環境ビジョンの達成に向けて

2030年を見据えて、戦略や社会課題、市場動向をもとに取り組むべき課題の再整理を実施



- 取り組むべき課題**
- 科学的根拠**  
SBT等によるLCAでの削減目標の認定
  - サーキュラーエコノミー**  
天然資源枯渇  
CO<sub>2</sub>排出削減
  - 情報開示**  
TCFD・TNFD・CDPでの適宜開示
  - カーボンフットプリント**  
炭素税対応  
製品別管理
  - 生物多様性**  
自然共生  
(乱獲・乱伐の防止)

**ステークホルダーのみなさまとともに、子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な地球環境を目指し、ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量ゼロを目指す**

# スクリプト

トヨタ紡織は2050年環境ビジョンを2016年に設定し、環境活動に取り組んでおります。現在推進中の2025年中期経営計画の先の、2030年ありたい姿の実現に向け、顧客や市場の動向を見ていく中でLCAやサーキュラーエコノミーのみならず、情報開示や科学的根拠の重要性を再認識いたしました。

特にScope 3は更なる精度向上に努めており、第三者機関を活用しつつ、仕入先様とも連携しGHGプロトコルに準拠した、競争力のある排出量管理に基づき目標の認定、実績の開示を目指します。

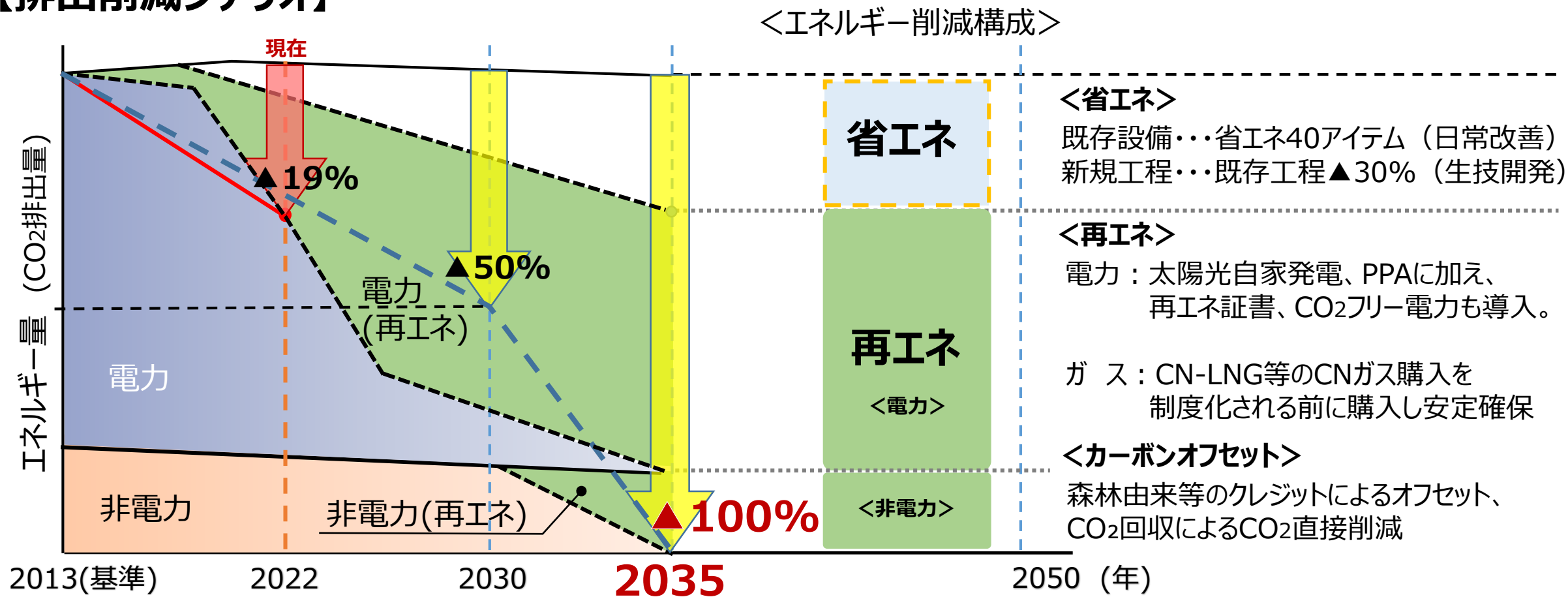
これらの活動を通し、すべてのステークホルダーの皆様と一致団結し、子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な地球環境を目指し、ライフサイクルCO2排出量ゼロを目指します。



# 2. 生産CO<sub>2</sub>削減 (Scope1.2)

## 工場CO<sub>2</sub> カーボンニュートラル

### 【排出削減シナリオ】



**2030年▲50%、2035年▲100% カーボンニュートラルを目指す**

# スクリプト

SCOPE 1, 2 については、国内外の完成車メーカーが相次いでカーボンニュートラル達成目標を2035年～40年に前倒ししている中、当社は、2030年迄に50%削減、2035年カーボンニュートラル100%を目標に取組みを加速してまいります。

方策として省エネ活動に加え、PPAやバーチャルPPAと言った再生可能エネルギーを必要量確保していくと同時に電力以外のエネルギーには森林由来等のクレジット購入や技術開発による直接CO2回収に向けて、現在取り組んでおります。

# 3. ものづくりを通じた環境対応 (Scope1.2)

## 省エネ活動によるCO2排出量削減

【生技開発での考え方と取り組み】

ステップ3

高エネルギー工程をなくす

ステップ2

高効率エネルギー工法に変える

ステップ1

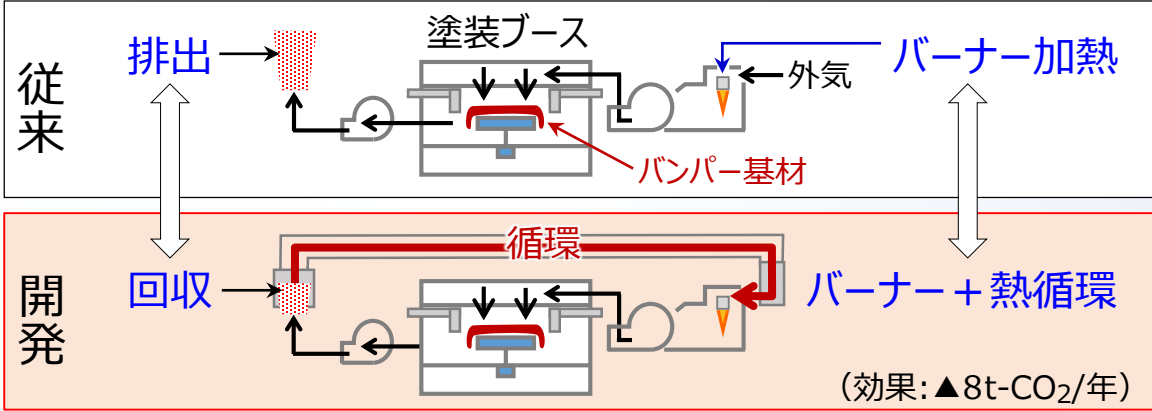
エネルギーのロス・ムダを減らす

### 事例1：バンパー塗装工程

フロントバンパー

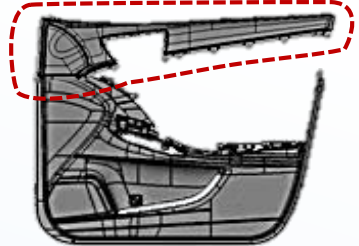


熱を循環させ  
加熱を減らす

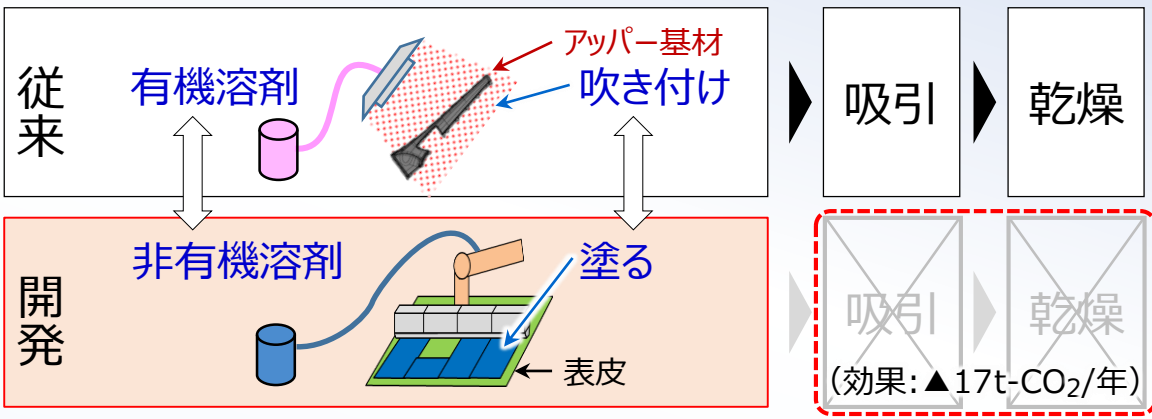


### 事例2：ドアトリム表皮接着工程

ドアトリムアッパー



工法を変え  
工程をなくす



『減らす・変える・なくす』の考え方でCO2排出量を確実に削減していく

# スクリプト

続いて、ものづくりを通じた環境対応について、  
ここでは生技開発によるCO<sub>2</sub>削減事例を紹介いたします。  
まず削減に向けた考え方は、エネルギーのロス・ムダを「減らす」、  
エネルギー効率の良い工法に「変える」、高エネルギーを必要とする工程を「なくす」  
のステップで削減目標を達成していきます。

事例として、バンパー塗装工程では、排気熱を循環させることにより、  
加熱エネルギーを「減らし」、CO<sub>2</sub>排出量を年間 8 t 削減。

また、ドアトリム表皮接着工程では、接着剤を変更し、“吹き付け”から、  
より高効率な“塗る”工法へ「変える」ことで、高エネルギー工程を  
「なくす」ことが可能となり、CO<sub>2</sub>排出量を年間17 t 削減していく予定です。

今後も「減らす・変える・なくす」の考え方でCO<sub>2</sub>排出量を削減してまいります。

# 4. SDGs達成に向けた循環型社会づくり (Scope1.2)

## 減量しきれない廃棄物の有効活用

### 【食品循環を目指した取り組み】



### 【表皮端材のアップサイクルと地域貢献】



社会と調和を図った活動を推進する

# スクリプト

当社の本業である生産活動において、廃棄物の減量を推進しておりますが減らしきれず廃棄されるものがあります。これらを活用する取り組みを紹介いたします。

1つは、食堂から発生する残食からバイオガスを生成し発電する取り組みです。バイオガスの生成過程で発生する液肥を、地域の農家様などに配付し農場にまいていただき、育った農作物を社内食堂で利用する食料循環のプロジェクトを進めております。

もう1つは、シート表皮の端材を活用したノベルティ製作や、アイデア・デザインを加え商品化するアップサイクルプロジェクトで、販売も好調です。

また、幼稚園に端材を提供し、子どもの感覚や創造力を高める教育へ寄与するなど、今後も社会と調和を図った活動を推進していきます。

# 5. ものづくりを通じた環境対応 (Scope3)

## バリューチェーンを通じた、CO<sub>2</sub>削減への取り組み

### 【仕入先様と一体となった取り組み】

[2022年度活動実績]

- ①仕入先協力会を通じた、脱炭素スクールの実施
- ②CO<sub>2</sub>排出量調査、低減アイテム積み上げ依頼

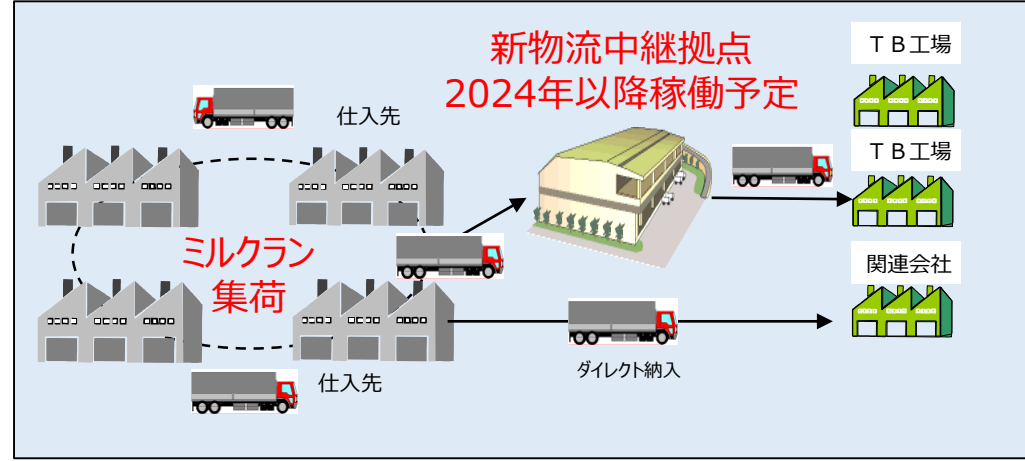
【Sunshine脱炭素スクール】



- ・外部講師による、現状把握～目標設定、低減計画立案の講義
- ・CO<sub>2</sub>排出量の見える化手法の講習やチームディスカッション

### 【高効率な物流の実現に向けた輸送体制の見直し】

#### ①引き取り物流化の推進と新物流中継拠点の設立(豊田市)



#### ②関連子会社の合併によるオペレーションの最適化

2021年10月1日にグループ物流子会社を合併



**バリューチェーン全体でScope 3のCO<sub>2</sub>排出削減に一体となって取り組んでいく**

# スクリプト

次にバリューチェーンを通じたCO2削減の取り組みです。

今年度は、トヨタ紡織仕入先協力会（サンシャイン）を通じた、脱炭素スクールを実施しました。

外部講師を招き、CO2排出量の現状把握から目標設定、低減計画の立案方法の座学、グループディスカッションを行いました。

もう一つの取り組みは高効率な物流の実現に向けた、物流体制の見直しです。ミルクランによる効率的な引き取り物流の実現を目指し2024年稼働に向けて、新物流中継拠点を準備しております。

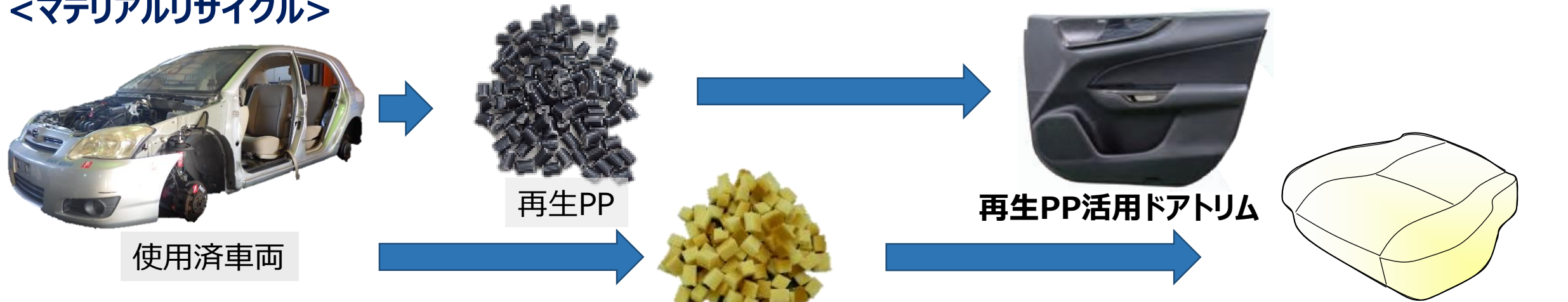
バリューチェーン全体でのScope3のCO2排出削減に仕入先様と一体となり取り組んでいきます。



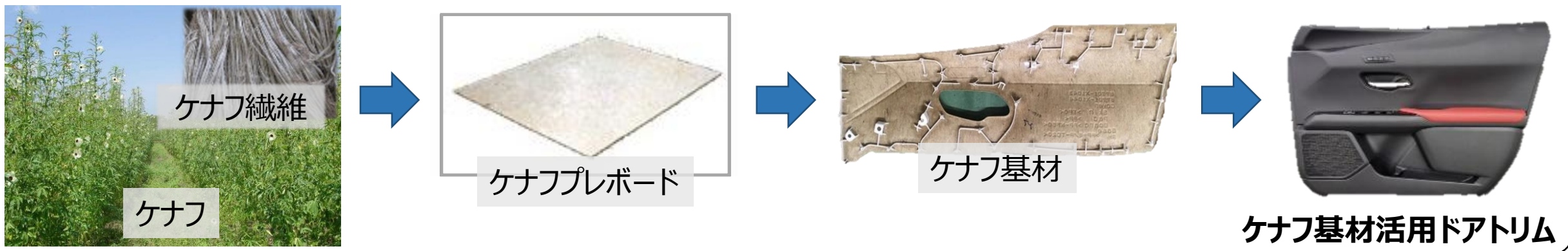
# 6. サーキュラーエコノミーへの取り組み (Scope3)

## カーボンニュートラル実現に向けた材料戦略の立案・実行

【具体的な取り組み内容】  
<マテリアルリサイクル>



<バイオマス化>



**技術開発により循環型材料製品を実現していく**

# スクリプト

サーキュラーエコノミーへの取り組みとして、カーボンニュートラル実現に向けた材料戦略の立案・実行をご説明いたします。

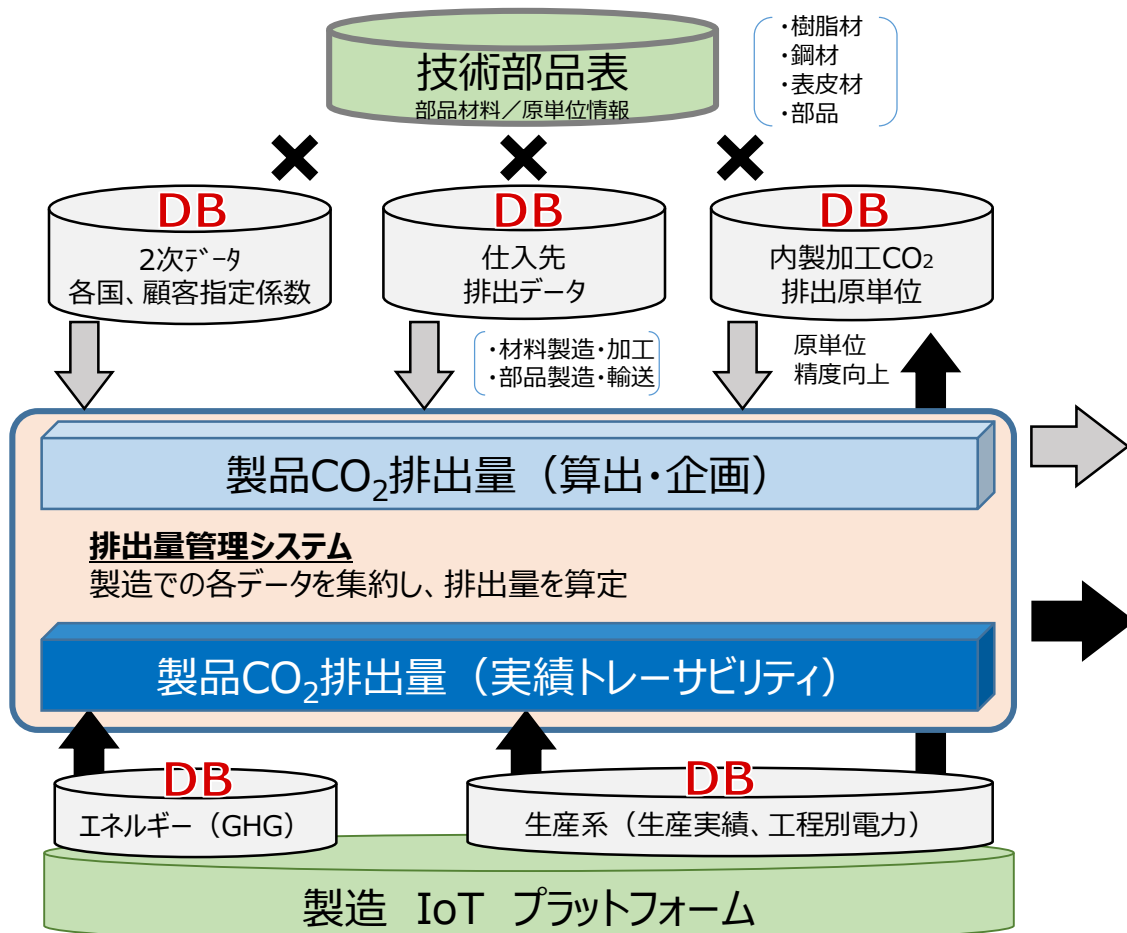
具体的な取り組みとして、使用済車両からのPP樹脂やウレタンのマテリアルリサイクルをすべく、回収方法の検討やリサイクル材を使用した製品開発を推進しております。

また、ケナフを製品に活用したバイオマス化にも取り組むことで、2030年に向けたCO2の削減、さらには2050年カーボンニュートラルの実現に挑戦してまいります。

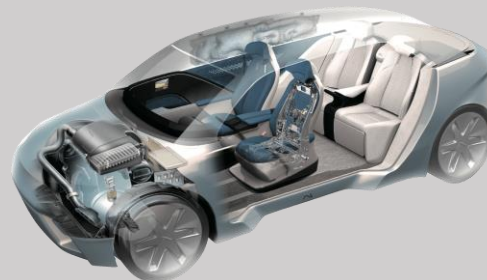
# 7. ものづくりを通じたLCA対応 (Scope全体)

## 排出量管理の仕組み構築

### 【製品別排出量管理の考え方】



### 製品開発



原価・質量企画同等の  
排出量企画の仕組み  
構築検討

算定データを生産性向上・CO<sub>2</sub>削減につなげる

### 排出量管理



見える化  
意思決定へ活用



CFP管理  
製品別排出管理



情報開示  
第三者認証対応

環境対応を競争力の強化と位置づけ、積極的に推進

TCFD、SBT等第三者機関への情報開示、目標の認定へ確実に対応し、競争力につなげる

# スクリプト

欧州を皮切りに導入が予定されている、国境炭素税対応も視野に、製品別の排出量管理の仕組み構築が、今後取り組むべき重要な課題の一つだと考えております。

情報基盤の強化と合わせ、製品別排出量についても社内に別々に存在する必要なデータを連携させ、排出量の算出・企画を効率化し、算定データを生産性向上、CO2削減へ活用し、競争力のある製品開発を実現します。

同時にトレーサビリティ含め、総量管理の確実な実施による、TCFD、S B T等第三者機関への情報開示、目標の認定へ確実に対応し、競争力に繋げていきます。

# 8. 生物多様性保全に向けた取り組み

## 生物多様性保全活動

### 30by30アライアンスへの賛同表明（2022年）



30by30（サーティ・バイ・サーティ）とは、2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させる（ネイチャーポジティブ）というゴールに向け、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標

### オールトヨタ グリーンウェーブプロジェクトへの参画（2015年～）

#### オオキンケイギク※駆除活動（2022年）



※ 特定外来生物  
として指定

#### トヨタ紡織フランスでの鳥類保全活動（2021年）



会社敷地内に灌木を植樹、鳥の住環境を提供することで、個体数復活を期待

**30by30 等の枠組みを通じ、固有種の生息地保護に貢献すると同時に、TNFDに沿った開示に向けた準備を進める**

# スクリプト

最後に生物多様性の取り組みです。

今年10月に環境省 30by30アライアンスへの賛同を表明しました。

これからも引き続き、生物多様性保全活動を推進していくなかで  
グループのネットワークを活用し、固有種の生息地保護に貢献するとともに、  
TNFDに沿った開示に向けた準備を進めていきます。



**社会：  
安全・安心・快適な車室空間の実現に向けて**

# スクリプト

Chief Technology Officerの山本です。

次に、私から、当社が目指している**インテリアスペースクリエイター**についてご説明いたします。



# 1. トヨタ紡織のありたい姿「インテリアスペースクリエイター」

## 目指す姿

- Interior Space Creator



## 実現したい価値

QUALITY OF TIME AND SPACE  
すべてのモビリティへ“上質な時空間”を提供



## こころ豊かな暮らし



## インテリアスペースクリエイターとしてこころ豊かな暮らしへ貢献する

# スクリプト

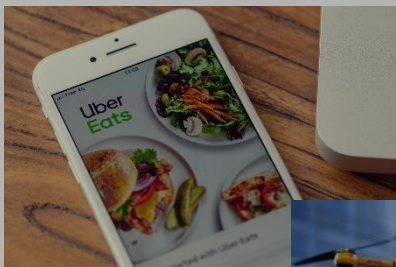
インテリアスペースクリエイターとは、  
構成部品 1 つからトータルコーディネートまで、お客様の期待を超えるソリューションを創造し、  
Quality of Time & Spaceを提供できるリーディングカンパニーになること、  
と定義しています。

我々は、インテリアスペースクリエイターとなって、  
人々の心豊かな暮らしへ貢献していきたいと考えています。

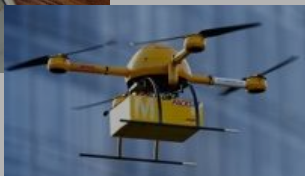
## 2. 社会動向と消費者ニーズ

# C

### 暮らしのインスタント化 が加速



出典1

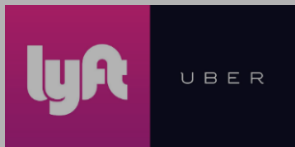


出典2



出典3

出典4



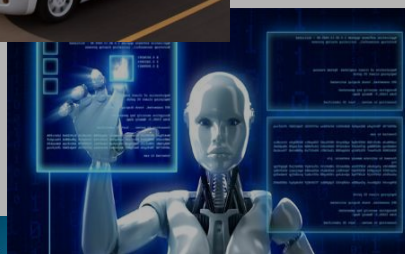
出典5

# A

### 生活の質が向上



出典6



出典7



出典8

# S

### Z世代を中心に 価値観が変化



出典9



出典10



出典11

# E

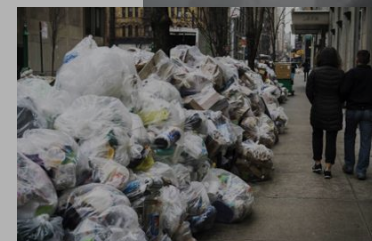
### 環境問題への 意識が向上



出典12



出典13



出典14

## CASEが今後さらに加速すると予測される

# スクリプト

当社がインテリアスペースクリエイターとなり、お客様の期待を超えるソリューションを提供するには、社会動向から消費者ニーズを先読みする必要があります。

1つ目は世の中に「必要な物がいつでも手に入るサービス」が普及し、暮らしのインスタント化が加速することが考えられます。

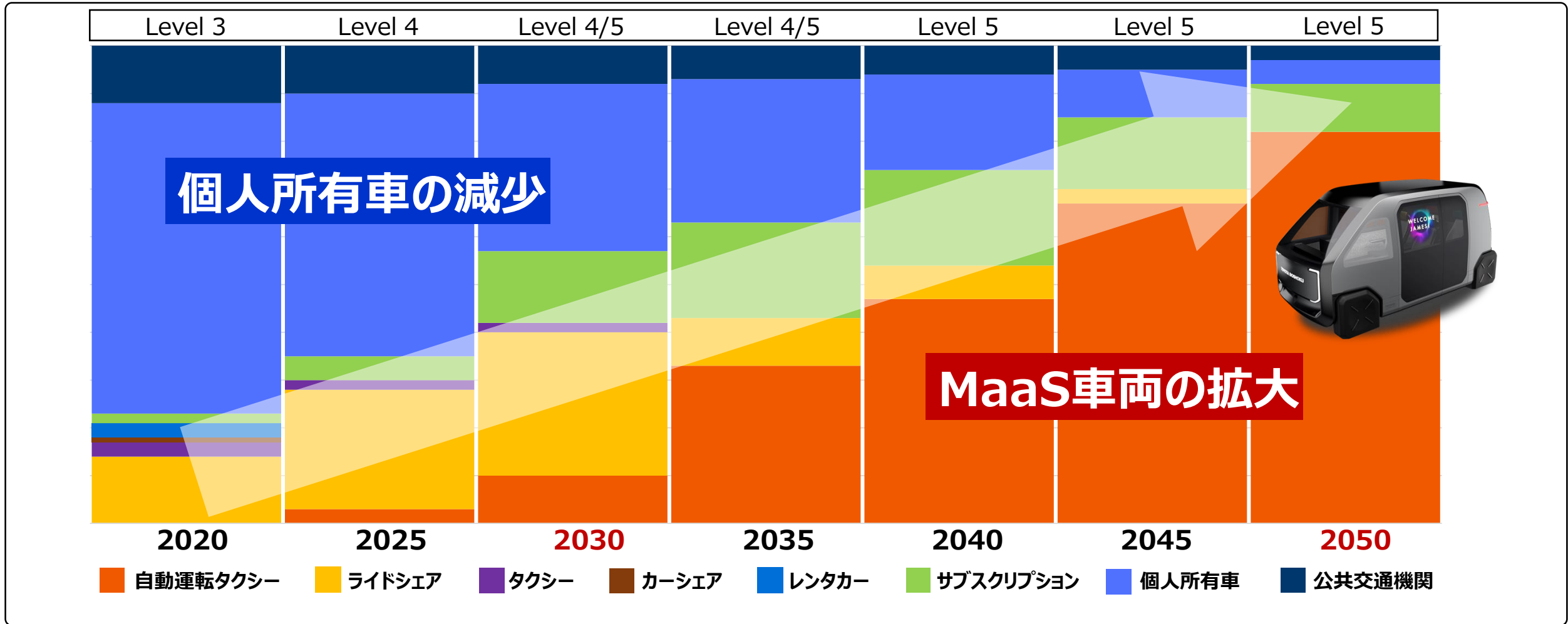
更には、「AIなどの技術進化」にともなう人々の生活の質が向上することや、「シェアリングの拡大」により、Z世代を中心とした価値観の変化も考えられます。一方、「日増しに厳しくなる生活環境」により、環境問題への意識も更に向上していくと考えています。

これらの消費者ニーズの変化により、CASEはさらに加速していくと予測しています。

# 3. 社会問題・自動車産業の変化

## 都市部における未来のモビリティ市場予測

※図：各種 調査会社市場予測を基にトヨタ紡織作成



## MaaS車両拡大への対応が必要

# スクリプト

これらを踏まえ、ここからはインテリアスペースクリエイターとしての取り組みをご紹介します。

こちらの図は、自動運転レベルの進化と、都市部でのモビリティ市場の変化を予測した図になります。

CASEの進展とともに、個人所有車は年々減少し、ライドシェアや自動運転タクシーなど、MaaS車両が急激に拡大していくと予測しています。

空間価値はこのようなモビリティの使われ方によって大きく変わると考え、これらの動向を見据えた4つのコンセプトを進めてまいりました。

# 4. インテリアスペースクリエイターに向けて



ニーズに応じたコンセプト企画を推進していく

# スクリプト

その4つのコンセプトがこちらになります。

横軸に所有とシェア、縦軸に移動とサービス主体と置き、  
この4象限においてニーズに応じたコンセプト企画を推進しております。

中でも、MXシリーズは、トヨタグループで連携し、新たなモビリティの価値を  
提案してまいりました。

MX191は、所有車をターゲットとした「常に見守り、移動が楽しくなる空間」を  
コンセプトに、トヨタグループ5社で連携いたしました。

また、MX221では、MaaS市場を見据えたライドシェアカーを想定し、  
「多様なユーザーに合わせ可変性をもつ空間」をコンセプトに、6社で連携しました。  
これらのコンセプトから、具体的アイテムに落とし込み、開発を推進しております。



# 5. 取り組みの具体的事例①

酔い軽減システム

FEEL GOOD

DO MORE

**背景：** 自動運転では、約 **4割**の方が「**車酔い**」しやすい行動を希望

**提供価値：** **乗り物酔いの軽減**や、迅速な回復をサポート

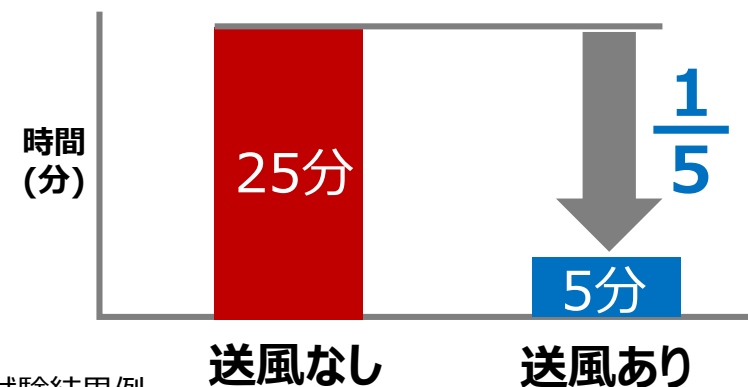
**機能：** **シートからの送風で首元を冷やし**、酔い軽減をサポート



<酔い実験の様子>



<酔いから回復するまでの時間※>



※当社試験結果例

**モビリティ一般へ価値を広げ、有意義な移動時間の提供で社会へ貢献する**

# スクリプト

開発の具体例として、「酔い軽減システム」をご紹介します。

ミシガン大学の調査によると、完全自動運転の車内でやりたいことの内、36%の人が動画視聴や仕事など、車酔いしやすい行動を希望しています。

そこで当社では、車酔いを軽減するシステムを提供することで、移動時間の車内を趣味や仕事など、自由な活動に活用し、お客様の生活をより豊かなものにしていただきたいと考えております

酔い軽減システムは、シートに搭載した送風システムで首元を冷やし、乗り物酔いの軽減をサポートするシステムです。当社のテストコースで、酔いやすい状況を再現した実験を行い、送風システムが無い場合と比べて、送風システムを使うと1/5の時間で酔いが回復することが確認できました。

今後は乗用車に限らず、MaaS車両、航空機、バスなどモビリティ全般に価値を広げ、有意義な移動時間の提供によって、社会へ貢献していきたいと考えております。

# 6. 取り組みの具体的事例②

熱マネジメントで電費向上

環境

FEEL GOOD

エアコン使用抑制と  
快適性向上両立

シート空調使用

エアコンのみ

エアコン抑制

シートヒーター使用

シート技術

① 高性能SVS(シート空調)

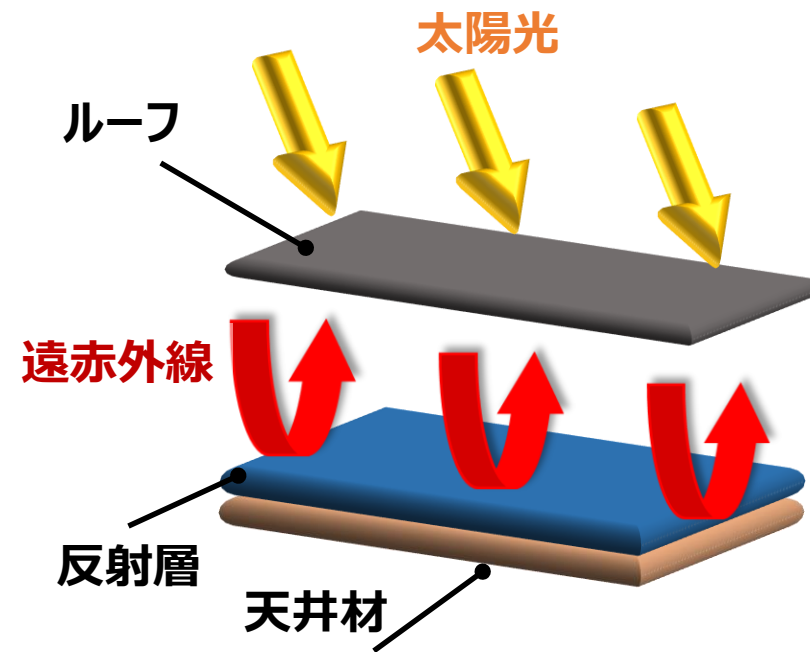
- ・シート内の圧損低減
- ➔送風性能向上

② スマートヒーター

- ・ヒト中心の緻密制御
- 可能なヒーター開発
- ➔ヒトに対し効率的な加温

内装技術

③ 遠赤外線反射天井



- ・遠赤外線を反射し蓄熱量を低減

エネルギー消費の抑制と快適性向上を両立し、環境も人も豊かにする

# スクリプト

次の具体例として熱マネジメントをご紹介します。

熱マネジメントを推進することで電費性能向上に貢献します。

蓄熱を減らすと共に、ヒト中心の温調によりエアコン使用を抑制しながら快適性向上も進めてまいります。

シート分野では、シート内の空気流路圧損を低減した高性能SVS開発と、ヒト中心の考えに基づき、部位毎に緻密な制御を行うヒーター開発を中心に進めております。

内装分野では、太陽光からの輻射熱の車室内への進入を抑制する遠赤外線反射天井の開発を進めております。

これらの技術により、エネルギー消費の抑制と快適性向上を両立し、環境と人がともに豊かになることを目指していきます。

# 7. 取り組みの具体的事例③

リラックス&セーフティシート

安全

DO MORE

目的

安楽姿勢の乗員に対する衝突エネルギー軽減方策の開発

開発状況

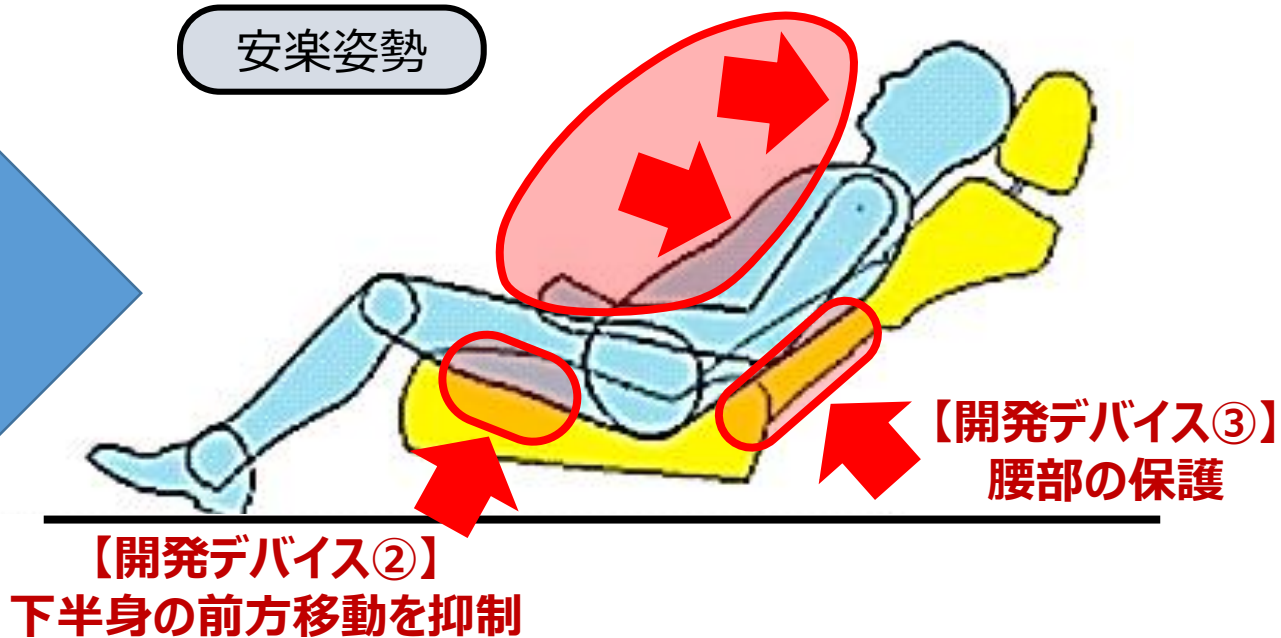
鋭意開発中

- ・さまざまな条件での効果を分析中
- ・開発デバイスのシート構造検討を実施中

着座姿勢



安楽姿勢



快適性と衝突エネルギー軽減を両立し、より自由な車室空間を実現する


# スクリプト

安全への取り組みもご紹介いたします。

自動運転に向けて、今後需要が見込まれる安楽姿勢シートでの乗員に対する衝突エネルギー軽減を目的に  
リラックス&セーフティシートの開発を推進しております。

現在の開発状況としては、様々な条件での効果確認や分析を行うと共に、シート構造の検討を実施しております。

この技術により、快適性と衝突エネルギー軽減を両立させ、より自由な車室内空間を創造していきます。

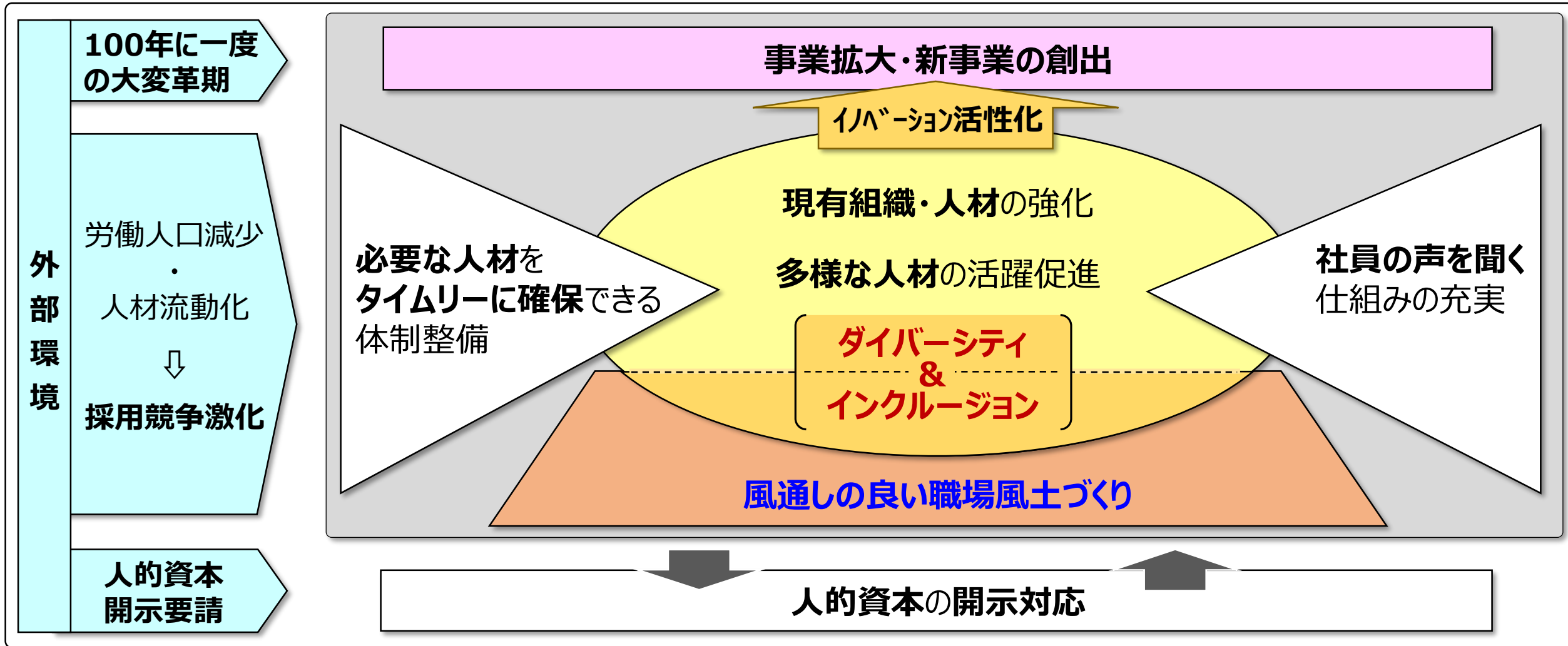


**社会：  
トヨタ紡織の誰もがいきいきと働き、  
イノベーションを起こすために**

Chief Human Resources Officerの永田です。  
私からは、当社の人材育成の取り組みをご説明いたします。



# 1. 人事戦略の全体像



2030年のありたい姿を実現するための人事戦略を体系化

# スクリプト

こちらが2030年のありたい姿を実現するための人事戦略の全体像です。

自動車業界は100年に1度の大変革期にあり、労働人口の減少などにより必要リソースの確保は一層難しくなることが予想されます。

従来の延長線上にない、新たな採用方法を導入しながら、必要なリソースはグローバルかつタイムリーに確保できる体制整備を行ってまいります。

管理スパンの適正化による面倒見の強化や、人材への投資も積極的に行うことで、組織・人材を強化してまいります。

また、誰もが率直に意見を言い合える「風通しの良い職場風土の醸成」により、多様な人材の活躍を一層促進し、事業の拡大・新事業創出に人事部門としても貢献してまいります。

# 2. ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)

## 〈グローバル共通の人事制度 (GHR Platform) の概要〉

	RSC Regional Succession Committee	GSC Global Succession Committee	GSCT Global Succession Committee by Top executive
内容	グローバルに <b>人材育成</b> と <b>最適配置</b> を議論する場		
議論 の 対象	本部・地域内 Manager以上	グローバル 拠点長・機能トップ・部長以上	役員候補
	G0/G1	G0/G1	G0/G1 役員候補
	G2	G2	G2
	G3	G3	G3

## 〈女性活躍促進ワーキンググループ° 活動風景〉



## 〈グローバル幹部教育 活動風景〉



## 〈ハラスメント防止 ライン長教育 活動風景〉



**D&Iと風通しの良い職場風土づくりにより 多様な人材の活躍を促進する**

# スクリプト

次に、ダイバーシティ&インクルージョンの取り組み事例について紹介します。

当社には、既に 女性・外国籍社員、シニア、障がい者など、様々な方が、働いておりますが、多様な人材に、より一層活躍頂くことが必要となります。

これまでも、グローバルで人事グレードの体系を共通化し、地域を越えて人材育成や最適配置を議論したり、役員候補者に向けたグローバル幹部教育を実施してきました。

国内でも、全ての社員の方々に、より一層ご活躍いただくため、例えば「女性活躍促進ワーキンググループ」といった、社員の皆さんの生声を把握したり、活躍促進策を議論する仕組みを構築しています。

また、多様性の拡大を、今後私たちの強みとするためには、誰もが率直に意見を言い合える風通しの良い職場風土づくりが不可欠であり、今年度はその第1段としてハラスメントに留意しつつも必要な指導は確実に行なえるようにするための全ライン長へのハラスメント防止教育等に取り組んでおります。

# 3. イノベティブ人材育成プログラム





**事業拡大・  
新事業の創出**

イノベーション  
活性化

多様な人材の  
採用・活躍促進

ダイバーシティ  
&  
インクルージョン

風通しの良い  
職場風土づくり

取組み (22年8月～)	内容
 <p><b>Re:act</b> (リアクト)</p>	<p>2022年度：参加者 <b>1,629</b> 名</p>  <p><b>宇宙week</b> 新しい価値を生み出そう</p> <p><b>新しい価値を生み出す <u>きっかけづくり</u></b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) イノベティブなアイデア創出のきっかけを提供するワークショップ (2022年度は「宇宙」をテーマに設定)</li> <li>2) 腕試しの場となるアイデアコンテスト</li> </ol>
 <p><b>We:ave</b> (ウィーブ)</p>	<p>名古屋のシェアオフィスでの活動の様子</p>  <p><b>新しい価値を生み出す <u>実践教育プログラム</u></b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 公募制・11名が半年間専任</li> <li>2) 有識者からの指導を受け自らのアイデアの事業化を検討</li> <li>3) 成果発表会</li> </ol>

**イノベティブ人材育成プログラムを通じ、事業拡大・新事業創出の担い手を育成する**

# スクリプト

また、今年8月よりイノベータータイプ人材育成プログラムとして、2大プロジェクトを始動しました。

1つ目は『Re:act(リアクト)』です。新しい価値を生み出すきっかけづくりとして今年8月に「宇宙Week」を開催しました。「もし火星に移住したら？」というテーマについて、部門を超えた計183名の社員が自発的に参加し、移住後の暮らしぶりを自由な発想で考えました。

2つ目は『We:ave(ウィーブ)』です。プレゼンテーションに合格した11名については半年間日常業務から離れ、有識者からの指導を受け、自らのアイデアの事業化に取り組んでおります。

こうした育成プログラムを通じ、事業拡大・新事業創出の担い手の育成を進めております。



# ガバナンス： 透明で公正な企業を目指して

最後に、白柳より、  
当社のガバナンスについてご説明いたします。



# 1. ガバナンス強化の取り組み

公正で透明な企業

赤字：本日ご紹介する取り組み

## 1) 取締役会実効性向上

- ①メンバーの多様性確保
- ②取締役会の議題の充実
- ③社外役員サポート強化

等

## 2) コンプライアンス体制強化

- ①内部通報制度の改善
- ②人権への取り組み
- ③行動指針浸透・実践強化

等

## 3) リスク管理体制強化

- ①リスク管理推進会議
- ②情報セキュリティ強化
- ③DXへの取り組み

等

ガバナンス強化の取り組みにより公正で透明な企業を目指す

# スクリプト

当社は公正で透明な企業を目指し、  
持続可能な成長の基盤となるガバナンスを強化しております。

具体的には、  
取締役会の実効性向上、コンプライアンス体制強化、リスク管理体制強化に  
取り組んでおります。

本日は、メンバーの多様性確保、取締役会の議題の充実、  
内部通報制度の改善、リスク管理推進会議の、4点をご紹介します。

# 1) 取締役会実効性向上

## ①メンバーの多様性確保

取締役会スキルマトリクス		企業経営	業界の知見	ガバナンス	海外事業	技術・開発	モノづくり	営業・調達	財務	人事・ひとづくり	法務・コンプライアンス	環境・エネルギー
地位	氏名											
独立社外取締役	小山 明宏			●					●	●	●	
独立社外取締役	塩川 純子			●	●				●		●	
独立社外取締役	瀬戸 章文			●		●	●			●		●
独立社外取締役	伊藤 健一郎		●	●	●				●	●		
取締役会長	豊田 周平	●	●	●	●	●	●	●				
取締役副会長	宮崎 直樹	●	●	●	●				●	●	●	●
取締役社長	白柳 正義	●	●	●	●			●	●			●
取締役執行役員	山本 卓	●	●	●		●	●					●
取締役執行役員	岩森 俊一		●	●	●			●	●			●

**豊富な経験や幅広い見識を有しているメンバーで構成している**

# スクリプト

取締役会は社外取締役4名と  
社内取締役5名の計9名で構成されています。

多様性の確保の為、  
豊富な経験や幅広い見識を有しているメンバーで構成しています。

# 1) 取締役会実効性向上

## ①メンバーの多様性確保

**小山 明宏** 学習院大学経済学部 教授

企業財務、コーポレート  
ガバナンス等の研究や  
グローバルな視点での  
**企業経営の専門知識**



**塩川 純子** コンヤース・デイル・アンド・ピアマン  
法律事務所 香港オフィス コンサルタント

投資ファンド、ファイナンス、国際  
M&A等のグローバル事案への  
**弁護士としての高い知見**



**瀬戸 章文** 金沢大学 理工研究域  
フロンティア工学系 教授

さまざまな工学の知識や技を  
組み合わせ、未来社会を  
切り拓く研究等の**科学的知見**



**伊藤 健一郎** デンソー取締役

さまざまな地域で経営役員を  
担当した豊富な**国際経験と**  
**人事・財務部門の幅広い知見**



**社外取締役の専門性の高い知見で経営の適正性を監督する**

# スクリプト

当社の社外取締役はそれぞれに高い専門性を有しており、その視点を活用して、経営の適正性を監督しています。

例えば、瀬戸取締役には、工学系教授としての科学的知見を基に、客観的に当社製品技術についての長所・短所のご指摘や、単品だけでなく、どう組みあわせると効果的なものになるか等のアドバイスを頂いております。

更に、塩川取締役には、国際的に活躍する企業法務弁護士の経験から、投資案件や知財戦略についてアドバイスを頂いております。

また、26ページでもご紹介しました、女性活躍促進ワーキンググループに参加いただき、当社の強化すべき点などを助言いただきました。

# 1) 取締役会実効性向上

## ② 取締役会の議題の充実

### 【取締役会の主な議題】

#### 法令等に基づく議題

- 株主総会関連
- 役員、組織、取締役報酬
- 内部統制システムの整備に関する基本方針
- 取締役会の実効性評価
- 内部通報制度の運用状況

等

#### 経営計画・戦略他

- グローバル方針策定
- 事業ポートフォリオ基本方針策定
- 事業進出・提携・再編
- コロナ対策・サイバー攻撃等のリスク管理
- 品質取り組み状況

等

#### ESG関連議題

- サステナビリティ基本方針、人権方針策定
- カーボンニュートラル対応
- 人づくりの取り組み
- 知財戦略、DX戦略
- ESG KPI状況報告

等

**ESG関連議題を充実し、経営を幅広く監督する体制を構築していく**

更に、取締役会では、  
従来の「法令等に基づく議題」や「経営計画・戦略」に加え、  
CSV経営を目指し、非財務情報であるESG関連の議題を充実させることで、  
経営を幅広く監督できる体制を構築しております。



## 2) コンプライアンス体制強化

### ①内部通報制度の改善

法令違反・社内不正等に関する相談窓口を当社および子会社に設置

＜当社および国内子会社から寄せられた相談件数＞

年度	2017	2018	2019	2020	2021
社内相談窓口※1	134	152	107	163	190
弁護士事務所 相談窓口※2	9	8	12	9	13

※1 コンプライアンス、仕事、人間関係、家族など個人的な悩みに関する相談・通報窓口

※2 コンプライアンス、法令・社内規則違反、不正行為に関する相談・通報窓口

**相談窓口の認知度と信頼度を向上し、課題の早期発見・解決につなげる**

また、企業不祥事の未然防止に向け、法令違反・社内不正等に関して、社内および弁護士事務所の相談窓口を、当社および国内子会社に設置しております。

海外子会社においても、地域共通の窓口と各社独自の窓口を設置しており、通報者の利益が損なわれない環境を整えています。

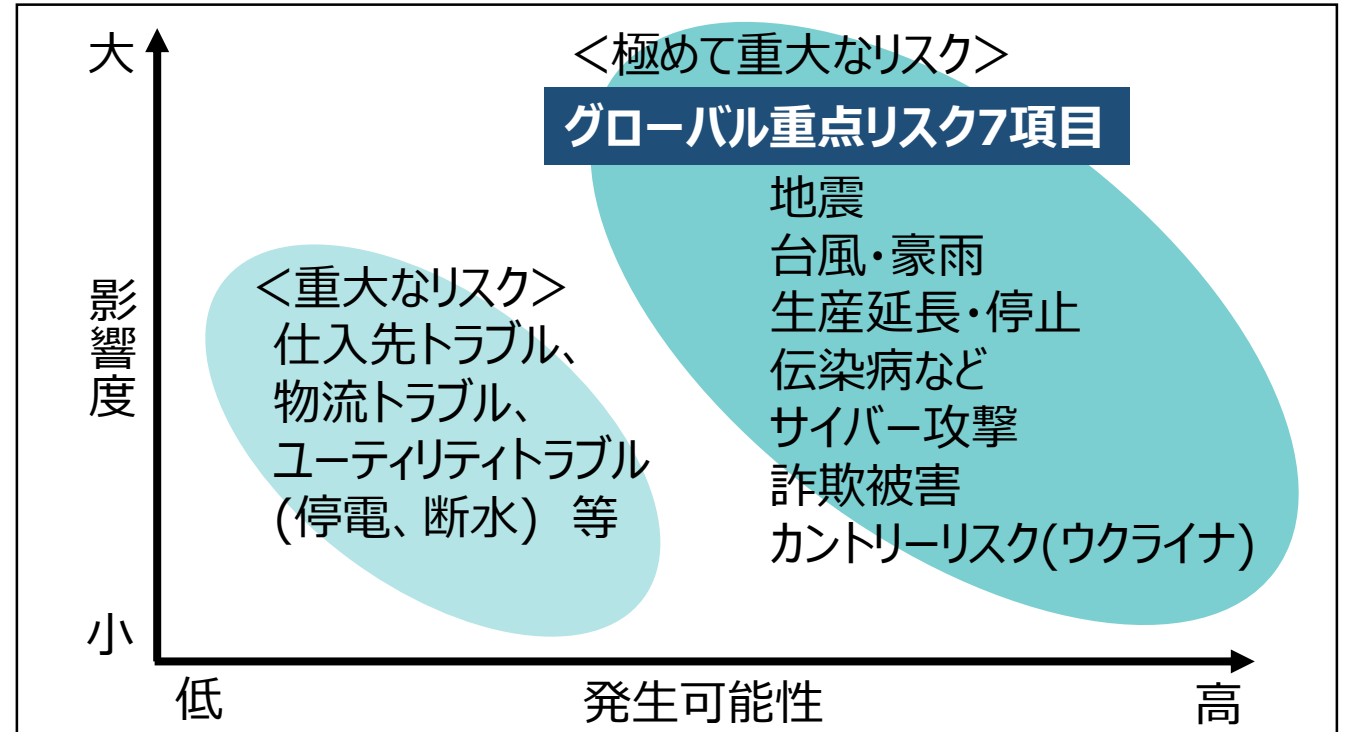
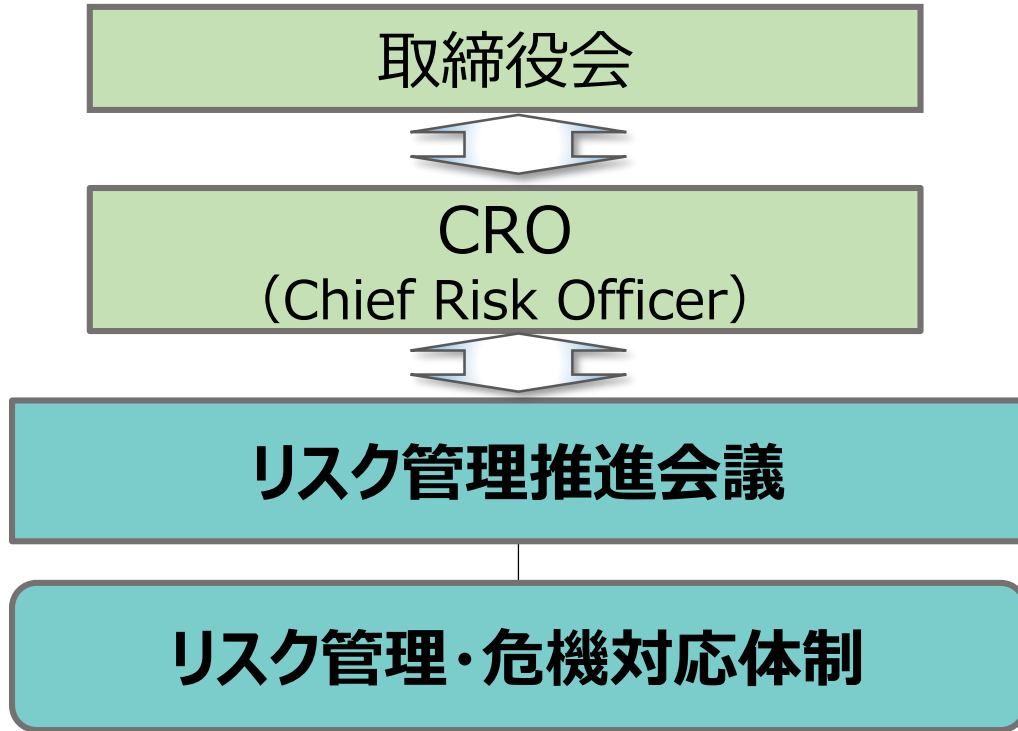
企業倫理強化月間等の活動を通して、全社的に相談窓口の認知度向上を進めており、相談件数も増加傾向にあるなど、内部通報制度の継続的な改善を進め、相談窓口の認知度と信頼度を向上し、課題の早期発見・解決につなげて参ります。

# 3) リスク管理体制強化

## ① リスク管理推進会議

CROを中心にリスク管理体制を構築し、経営に影響を及ぼす新たな事業リスクに対応

### 2022年度トヨタ紡織グループリスクマップ



**リスクマップに基づき、経営陣含め社内共有することで、  
リスク予防と危機発生時の被害最小化を図る**

# スクリプト

近年の経営に影響を及ぼすような、  
コロナウイルス感染拡大や、サイバー攻撃といった新たな事業リスクに対応するため、  
CROを中心にリスク管理体制を構築しています。

リスク管理の仕組みとして、リスク管理推進会議でリスクを洗いだし、  
グローバル重点リスクを含むリスクマップを策定、実効性のあるリスク管理活動を実施しています。

リスクマップに基づき、経営陣を含め社内で共有することで、  
リスク予防と危機発生時の被害最小化を図っております。

なお、これらのリスク管理体制強化の取り組みは取締役会で報告しています。

ともに挑む 新たな100年 Open the door!



**TOYOTA BOSHOKU**

# スクリプト

以上、当社が進めているESGの取り組みについてご説明させて頂きました。

当社は、ビジョンの実現に向け、  
2025年中期経営計画を確実に実行し、  
2030年、2050年も社会に必要とされ続ける企業であることを目指し、  
企業価値を向上させ、持続可能な成長を実現してまいります。

引き続き、皆様方のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

# ESG KPI 25項目

本日ご紹介した取り組みに関連するESG KPI

E (環境)					S (社会)					G (ガバナンス)				
NO.	KPI項目	2021年度実績	目標値		NO.	KPI項目	2021年度実績	目標値		NO.	KPI項目	2021年度実績	目標値	
			2025年度	2030年度				2025年度	2030年度				2025年度	2030年度
1	生産CO <sub>2</sub> 排出量削減率 (2013年度比)	▲1.6%	▲25%	▲50%	8	特許出願件数	221件	320件/年	500件/年	18	環境異常・苦情発生件数	0件	0件	←
2	再エネ導入率	3.7%	15%	40%	9	社外発表・論文数	61件	90件/年	120件/年	19	サイバーセキュリティ重大インシデント発生件数	-	0件	←
3	物流CO <sub>2</sub> 排出量削減率 (2011年度比)	▲36%	▲14%	▲20%	10	インテリアスペースクリエイターにつながる新製品開発率	50%	65%	75%	20	DX認定	-	DX-Excellent企業	←
4	廃棄物排出量削減率 (2011年度比)	▲17.9%	▲14%	▲20%	11	交通安全に寄与する製品の採用が予定される車種率	-	20%	50%	21	独占禁止法違反件数	0件	0件	←
5	水使用量低減率 (2013年度比)	▲24.6%	▲6%	▲8%	12	社会貢献活動の推進参加者数	延べ1,067人	延べ2,000人	←	22	贈収賄違反件数	0件	0件	←
6	自然共生 (植樹本数)	5万本	累計64万本	累計77万本	13	行動指針の実践度	78%	100%	←	23	サプライチェーン上の人権リスク対応 (人権デュー・デリジェンスの展開)	-	展開率100%	←
7	環境負荷ミニマム化につながる電動化製品のユニット部品における売上高比率	4.2%	10%	45%	14	全社員へのストレスチェック実施回数	1回/年	1回/年	←	24	客先からの外部表彰	11件	5件	←
					15	健康診断受診率	99.9%	100%	←	25	適時開示遵守率	100%	100%	←
					16	社員の重大災害発生件数	0件	0件	←					
					17	外来工事業者・外来者の重大災害件数	0件	0件	←					

- 1.<https://manamina.valuesccg.com/articles/835>
- 2.<https://www.prometec.net/nuestro-proyecto-para-un-dron-util/>
- 3.<https://logosmarcas.net/netflix-logo/>
- 4.<http://pngimg.com/download/61228>
- 5.Uber, Lyft And Commercial Truck Accidents - Lyft Decal Transparent PNG - 1056x556 - Free Download on NicePNG
- 6.<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/1602/11/news027.html>
- 7.<https://www.hina.com/blog/24>
- 8.<https://www.eweek.com/innovation/cyberfest-conference-looks-at-road-ahead-for-iot-security/>
- 9.[https://www.toyota-mobi-tokyo.co.jp/column/20220630\\_kinto\\_recommend](https://www.toyota-mobi-tokyo.co.jp/column/20220630_kinto_recommend)
- 10.<https://why.mopress.io/press/YRdGp8KeDz>
- 11.<http://futurelab.assaabloy.com/en/security-in-the-sharing-economy/>
- 12.<https://www.thestar.com.my/news/nation/2017/11/18/traffic-jam-in-china-behind-viral-posting-of-mass-desertion-of-cars-in-germany/>
- 13.<https://www.theuniplanet.com/2017/04/poluicao-gerada-na-china-para-fabricar.html>
- 14.<https://www.wsj.com/articles/nyc-spends-more-on-recycling-collecting-than-regular-trash-1503585000>